



お話を伺った荻原礼子さん
写真も荻原さんより提供

「区に意見書を提出する期間が迫っている。今、地域の一軒一軒のお宅を訪問して、意見を出しましょう、とお話しています。住んでいるみなさん、ご存じなくて、ビックリされています。」まちづくりプランナーの荻原礼子さんは、この町に住んで16年。区の街づくりニュースをみて、下北沢のまちをあまりにも大きく変えてしまう区の計画に驚き、まちづくりの専門家や建築家の仲間に声をかけて、04年末にフォーラムを開いたことから、「下北沢フォーラム」が誕生しました。

「歩いて見てわかるのは、一人暮らしのお年寄りが多いこと。何がなんだかわからないうちに決定がされて、気が付くと自分の家がビルの中に埋もれてしまっている、と

「区に意見書を提出する期間が迫っている。今、地域の一軒一軒のお宅を訪問して、意見を出しましょう、とお話しています。住んでいるみなさん、ご存じなくて、ビックリされています。」まちづくりプランナーの荻原礼子さんは、この町に住んで16年。区の街づくりニュースをみて、下北沢のまちをあまりにも大きく変えてしまう区の計画に驚き、まちづくりの専門家や建築家の仲間に声をかけて、04年末にフォーラムを開いたことから、「下北沢フォーラム」が誕生しました。

「下北沢フォーラム」

<http://shimokitazawa-forum.net/>

まちの 27 市民力!!

取材・星野 弥生

街の中で地域やそこで暮らす人たちと一緒に活動している団体を紹介します

が、まちの変化や将来像をどう見るのかの視点がまったくくないのです。区が一方的に、こうなります、と説明するだけ。」

ゴチャゴチャした路地ばかりでは消防車も通れない、だから防災上、広い道を作る必要がある、とよく言われます。「災害に関しては、もっと早く防災避難路を確保すべきです。だって、何十年先の計画でいいの？何時起こるかかわからないのが災害なのに、全然防災になっていない。」うーん、説得力、ありますね。

世田谷区都市計画審議会地区計画案が審査される秋までに、フォーラムでは、多様な意見を持つ団体の代表者が参加するラウンドテーブルを設置し、早期に合意形成を図ることを提案しています。フォーラムの世話人となっている、建築家、ジャーナリスト、小学校のPTAや親父の会、代表の明治大学教授の小林正美さん、そして広報を全面的に引き受ける荻原礼子さん、みんな超忙しく、「会うのは、真夜中かな？だいたいメールで」連絡しあう仲間たち。

「ともかく住民の声を区に伝えたい」と荻原さんは、学生さんの手を借りつつ、今日も、家々を説明しに回ります。